

ドル為替 (東京市場)

2010.3.11

<日足から想定される今後1週間程度の相場>

日足は米ドルの高値圏(桃色の帯)と回帰値(緑色の実線)の間で極短い同値足(始値と終値がほぼ同値の足形)となっています。当面は高値圏へ向かう展開となる方が自然ですが、一直線に向かえなかったことから、騰勢はそれほど強くはないことが示唆されます。万が一、このまま反落に転じて回帰値を割り込むようなら、ドルの売り圧力はかなり強いと見た方が良さそうです。

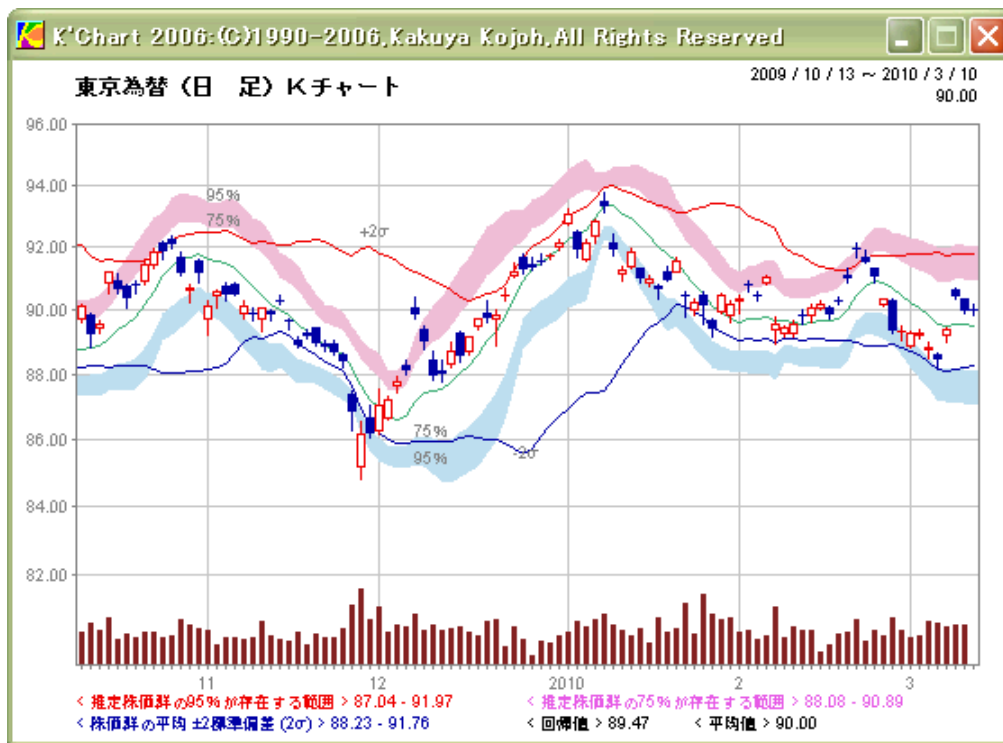
<週足から想定される今後1カ月程度の相場>

週足は回帰値近傍で極短い陰線となっています。今週末に明確な陰線となって終わるようなら、今後米ドルの下値圏(水色の帯)へ向かう展開が想定されますが、回帰値を突破する明確な陽線となって終わるようなら、高値圏へ向かう展開となる可能性も出てきます。

<月足から想定される今後3カ月程度の相場>

月足は回帰値を僅かに上回る位置で短い陽線となっています。当面は一段下落して実体が回帰値を跨ぐ場面があると想定されますが、回帰値を跨いだ後は転換しやすいタイミングとなりますから、その後の方向性については慎重に見極めた方がよいでしょう。

米国では企業業績は回復しているもののジョブレス・リカバリーの様相を呈しており、庶民の懐具合の回復は進んでいません。一方、欧州ではギリシャを発端とした金融不安が広がっており、ユーロは不安定な展開が続いています。消去法で円が強含む展開となっていますが、米、欧のそれぞれの材料が市場に織り込まれた段階で反動が起きることも予想されます。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではありません。その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではありません、その正確性や完全性を保証するものではありません、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようお願いします。